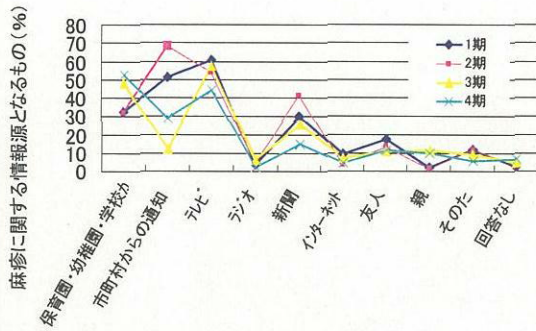


結果(5): 麻疹およびワクチンに関する情報源



- テレビは全期を通して1位あるいは2位を占めた
- 1期・2期においては市町村からの情報、3期・4期は学校からの情報が重要と考えられた

表: 各期における上位4位までの情報源

	1位	2位	3位	4位
第1期	テレビ(60.5%)	市町村からの通知(51.3%)	保育園・幼稚園からの通知(32.8%)	新聞(30.2%)
第2期	市町村からの通知(68.4%)	テレビ(54.4%)	新聞(41.3%)	保育園・幼稚園からの通知(32.3%)
第3期	テレビ(57.6%)	学校からの通知(48.5%)	新聞(25.8%)	市町村からの通知(12.4%)
第4期	学校からの通知(52.7%)	テレビ(44.4%)	市町村からの通知(29.1%)	新聞(14.7%)

考察および提言(1)

- 1期・2期対象者:
 - **麻しん対策への関心が高く、CMへの関心・共感も最も大きかったグループであると考えられた**
 - これらのグループにおけるCMの有用性は高かった
 - もともと幼児～年長児の保護者としての麻疹への関心が高い可能性
 - Kiroroへの親近感が最も近い年齢層・保護者としての共感が影響している可能性
 - これらの期への対応としては、市町村からの情報伝達による、現行の個別接種の強化継続で良いと考えられる
 - この年代への媒体戦略として現行の方向性を継続可能
 - **2期対象児保護者が早期に接種行動を起こすための対応が必要**
 - 接種対象であることを認知しているが接種行動が遅い